

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
AA41G021	データサイエンス入門 (Introduction to Data Science)	基礎分野科目

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	1	前期	水7	上白木悦子 (学長補佐), 未定 (数理データサイエンス専門部会長) 内線: E-mail: dsintro@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

これからのデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことが要求される。この科目ではそのための基礎的素養を学ぶ。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を扱う際に、これらを説明し、適切に活用できるようになることをめざす。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。					○	
2. データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる。					○	
3. データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを説明できる。	○					
4. 適切なデータ可視化手法を選択し、他者にデータを説明できる。	○					
5. データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について説明できる。				○		
6. 個人のデータを守るために留意すべき事項を説明できる。				○		

【授業の内容】

1	社会におけるデータ・AI利活用① データサイエンスとは/社会で起きている変化 (教育:市原, 中原, 杉山) (医:安徳)
2	社会におけるデータ・AI利活用② データ・AI利活用の現場/データ・AI利活用の最新動向 (経済:小野(宏) (教育:市原, 中原, 杉山)
3	社会におけるデータ・AI利活用③ 大分大学教員における研究事例紹介/社会で活用されているデータ (経済:小野(宏)
4	社会におけるデータ・AI利活用④ データ・AIの活用領域/データ・AI利活用のための技術 (理工:高見, 畑中)
5	データリテラシー① データを読む (医:谷川, 岩城) (保健:中里)
6	データリテラシー② データを説明する/データを扱う (理工:未定)
7	データ・AI利活用における留意事項① データ・AIを扱う上での留意事項 (理工:原(恭))
8	データ・AI利活用における留意事項② データを守る上での留意事項とまとめ (教育:市原, 中原, 杉山) (基盤セ:上白木)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A:知識の定着・確認	○	演習課題への取り組み	LMS (Moodle) の活用
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	参考書等を事前に読んでおく。(7h)
事後学修	講義資料や参考書等を用いて復習する。演習課題に取り組む。(15h)

【教科書】

教科書は指定しない。

【参考書】

北川源四郎, 竹村彰通 編『教養としてのデータサイエンス』講談社, 2021 年

上藤一郎 著『絵と図でわかるデータサイエンス』技術評論社, 2021 年

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	到達目 標 1	到達目 標 2	到達目 標 3	到達目 標 4	到達目 標 5	到達目 標 6
「社会におけるデータ・AI 利活用」につい ての演習課題	50%	○	○				
「データリテラシー」についての演習課題	25%			○	○		
「データ・AI 利活用における留意事項」に ついての演習課題	25%					○	○

小テスト及びまとめテストの点数が満点の 60%以上になると単位修得条件を満たします。

【注意事項】

オンデマンド型オンライン授業として実施する。

学修スケジュールを Moodle に掲載するので、必ず確認すること。

【備考】 オムニバス形式の授業である。なお、本科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の政府認定を受けた「データサイエンス基礎教育プログラム」の必修科目である。

教員の実務経験の有無	
教員の実務経験	
教員以外で指導に関わる実 務経験者の有無	
教員以外の指導に関わる実 務経験者	
実務経験をいかした 教育内容	
授業形態	オンライン（オンデマンド型）